

Security Platform

守るだけじゃない。-物理セキュリティ-

株式会社セキュア

Anna

- Age : 28
- Job : Full Time
- Sex : Woman

temp 36.6° | bpm 65 | 57%

Jessica

- Age : 28
- Job : Full Time
- Sex : Woman

R1

90% Note ✓

SECURE

Explanatory Material on Growth Potential

事業計画及び成長可能性に関する事項

2022年3月

Mission

Make place Secure
Upgrade place Smart



Vision

AI x セキュリティで
新しい価値を創る



AI

(画像認識)



セキュリティ

01

会社概要

- 01. 会社概要
- 02. 事業環境と当社の強み
- 03. 成長戦略
- 04. 財務ハイライト

基礎情報

会社名	株式会社セキュア（英文表記：SECURE, INC.）
代表者	代表取締役 谷口辰成
設立	2002年10月（第2創業 2010年）
資本金	534,044,100円（2022年1月31日現在）
本社	〒163-0220 東京都新宿区西新宿二丁目6-1 新宿住友ビル20F
子会社	SECURE KOREA, Inc.（当社100%）
主な事業内容	セキュリティソリューション事業
事業許可等	【一般建設業】 国土交通大臣許可（般-1）第27739号 建設業の種類 電気工事業 国土交通大臣許可（般-1）第27739号 建設業の種類 電気通信工事業
所属団体	一般社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会 一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会 一般社団法人 日本ディープラーニング協会

社員数



拠点



国内：5拠点 海外子会社：1社

「ソフト」と「ハード」で構成された物理セキュリティシステムを提供。

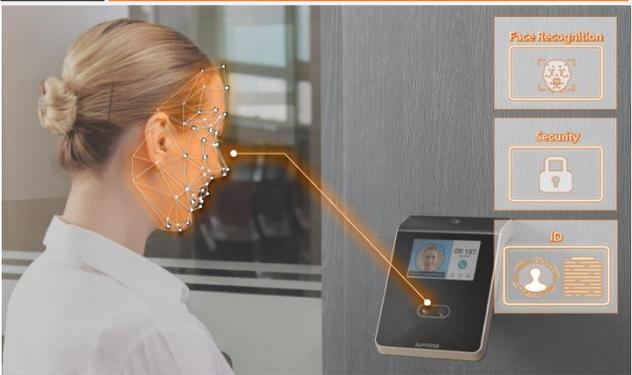
顧客の求めるセキュリティニーズに応じて、AI（画像認識）を活用した付加価値を実装。



※AI未実装のサービスも存在します

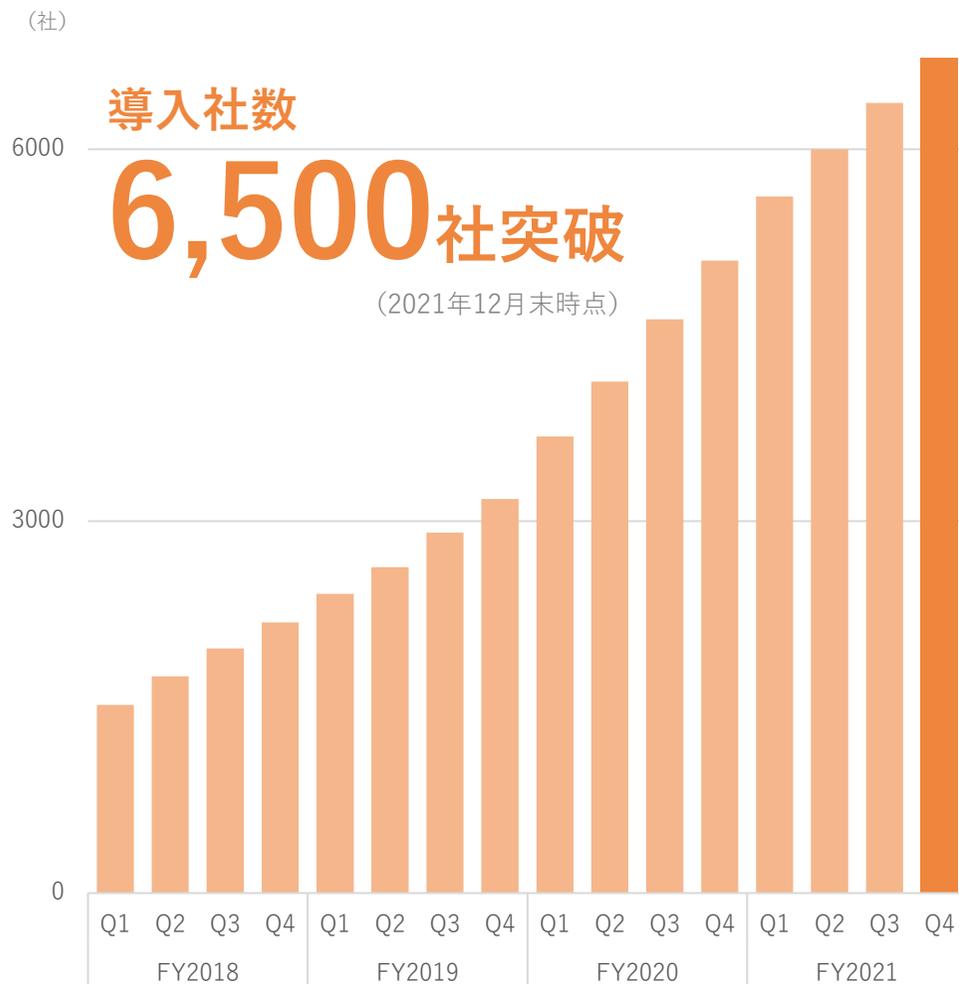
3つのカテゴリーでサービスを提供。

主に「オフィス・工場・商業施設」などに対してセキュリティソリューションを展開。

1	<h2>SECURE AC</h2> <p>入退室管理システム Access Control</p>	<h2>SECURE VS</h2> <p>監視カメラシステム Video Surveillance</p>	<h2>SECURE Analytics</h2> <p>画像解析サービス/その他</p>
			
<p>提供サービス</p>	<p>* 主要商品</p> <p>入退室管理システム SECURE AC (画像認識実装)</p> <p>SECURE AI Office Base (画像認識実装)</p> <p>のぞき見ブロック (画像認識実装)</p>	<p>* 主要商品</p> <p>監視カメラシステム SECURE VS</p> <p>FaceTracker (画像認識実装)</p> <p>SECURE VSaaS (画像認識実装)</p>	<p>* 主要商品</p> <p>混雑COUNT (画像認識実装)</p> <p>vem count (画像認識実装)</p>
<p>売上構成比</p>	<p>FY2021 : 938百万円</p> <p>売上構成比率 : 27.8%</p>	<p>FY2021 : 2,343百万円</p> <p>売上構成比率 : 69.4%</p>	<p>FY2021 : 95百万円</p> <p>売上構成比率 : 2.8%</p>

導入企業数の推移

- 大規模商業施設からITベンチャー、食品工場まで6,500社以上の導入実績。
- 様々なお客様の働く環境に、安心・安全とプラスアルファの価値を提供。



導入クライアント（一部抜粋）





1

SECURE AC

入退室管理システム

オフィスや店舗・工場等にカードリーダーや指紋・顔認証などの入退室管理システムを提供。クラウド型のサービスではオフィスの利用状況や混雑度、社員の健康管理も把握可能。勤怠管理や在籍管理等も行える。

主な導入先



主にオフィス
へ導入

利用シーン

10-1,000名

オフィスセキュリティや
フィットネスなどでの
会員管理にも利用可能

特徴

段階的な拡張や
サテライトオフィス
等の多拠点管理にも
優れている

クラウド オンプレ

7.2% ← 92.8%

(FY2021)

クラウド強化中 ※前年度は0.8%



2

SECURE VS

監視カメラシステム

数台の小規模システムから、10万台の超大規模システムまで、顧客ニーズに応じて様々なデバイスと顔認証等のAI（画像認識）を組み合わせて最適な監視カメラシステムをオンプレミス・クラウドで提供。

主な導入先



主に商業施設
へ導入

利用シーン

小売店での
万引き対策や
ビルや工場等の
セキュリティ対策

特徴

最大10万台越

カメラ台数4台程度の小規模システムから10万台超の大規模システムまで運用性の高いシステムを構築・提案

クラウド オンプレ

2.0% ← 98.0%

(FY2021)

オンプレ主体



3

SECURE Analytics

画像解析ソリューション

AI（画像認識）技術を用いて、商業施設やイベント会場、避難所などの混雑度を分析、予測するソリューションを提供。API連携で施設の混雑状況を外部掲示するなど柔軟な運用にも対応。

主な導入先



(オフィス) (商業施設) (工場)

主に商業施設
へ導入

利用シーン

施設内の混雑状況を
リアルタイムで
Webサイトや
店頭サイネージ
で表示

特徴

SaaSモデル

1台から利用可能なサブスクモデル
監視カメラの画像を流用することも可能

クラウド オンプレ

100% 0%

(FY2021)

クラウド100%



導入サービス SECURE AC

複数拠点 多フロアのオフィスを一元管理
18扉すべてを顔認証で入退室管理



導入企業

企業名 : スマートニュース株式会社

事業内容 : ニュースアプリ「SmartNews」の
企画・開発・運用

所在地 : 東京都渋谷区

導入年月 : 2021年 5月



SmartNews

従業員数

約500名

導入理由

- テレワークに対応できるシステムへの更新
- 新入社員の登録の煩雑さの低減
- フロアごとの在籍者管理をデジタルで実施したい
- 体温記録台帳の廃止

選定ポイント

- スピード・精度・コストに優れた顔認証システム
- 入退室の認証でストレスを感じさせない
- 運営コストも抑えつつ、堅固なセキュリティレベルを実現
- 今後の分析サービスのアドオンにも期待



選定のポイント

- 運用性に優れた高度なモニタリングシステム
- 豊富なラインナップ+互換性
- データ損失のリスクに対応
- AI実装や他システムとの連携性に優れたスケラビリティ

導入サービス SECURE VS

店舗経営におけるロス率の削減を目指す



スマートショッピングカート



リテールAIカメラ



セキュリティカメラ



モニタリングシステム

* AIによる万引き犯によるロス率の分析や削減を目指した実証実験進行中

導入企業



企業名 : 株式会社トライアルカンパニー
事業内容 : 小売/ソフトウェア開発/物流/商品開発・製造
所在地 : 福岡県福岡市
導入年月 : 2020年～順次

従業員数(グループ)

約5,295名

導入サービス SECURE AC

トライアルグループのAI拠点である「リモートワークタウン宮若」の施設内に顔認証をはじめとした**入退室管理システムSECURE AC**を導入



顔認証



指紋認証

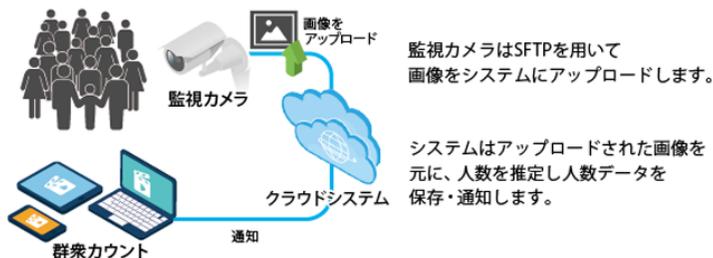


混雑見える化で安心して入店

導入サービス SECURE Analytics

● クラウドアプリでいつでもどこでも混雑状況を把握することが可能

- *監視カメラ映像とインターネット環境があれば利用可能です。
- *現地にてサーバーの設置は必要ありません。



導入企業



企業名 : 株式会社ドトールコーヒーのフランチャイズ加盟店であるマルエイフーズ株式会社

所在地 : 高知県高知市

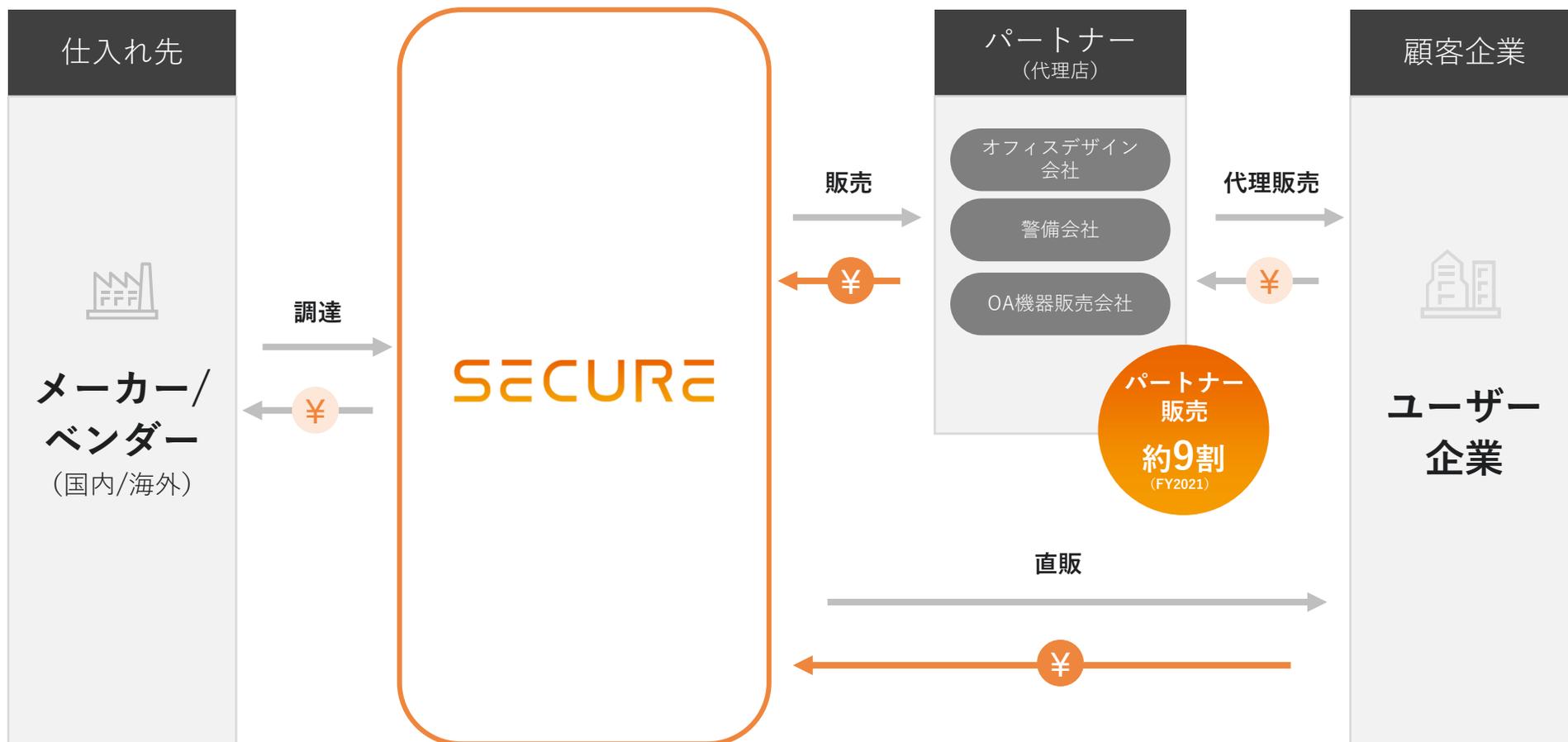
導入年月 : 2021年 8月

導入理由

- ・ **新型コロナウイルスなどの感染症拡大の影響により、来店客数の減少を予測して店舗DXを検討**
- ・ 感染対策や従業員のオペレーション改善
- ・ 群衆や混雑の見える化を行いたい
- ・ 感染対策や従業員のオペレーション改善
- ・ 店内の混雑状況を計測を行える
- ・ 来店客が1階から3階の店内全フロアの混雑状況を事前に確認できる
- ・ 従業員がスムーズに来店客を空いている席へ案内することが可能になった

該当事業	サービス名	詳細
1 AC (Access Control)		IPベースのオンプレ型入退室管理システム 。カード認証またはAI（画像認識）を活用した顔認証・指紋認証等のID認証リーダーとサーバーのみの構成で拡張性に優れ、小規模から大規模まで対応が可能。
1 AC (Access Control)		オフィスのフリーアドレス化やサテライトオフィスの活用等、新しいワークスタイルを実現する クラウド型入退室管理システム 。AI（画像認識）を活用して事前登録を行った社員の入退室管理の他、測温による健康管理や勤怠管理、オフィスの稼働状況、混雑度合、勤怠状況、勤務時の表情等様々な分析が可能。
1 AC (Access Control)		パソコンのぞき見（ショルダーハッキング）による 情報漏えいをブロックするAI顔認証ソリューション 。登録者以外の顔を検知すると画面をロックし操作中の情報の機密性を担保する。パソコンへのアクセスをコントロールするという概念から、SECURE ACとして分類。
2 VS (Video Surveillance)		幅広い製品群からクライアントの課題を解決する オンプレミス型監視カメラシステム 。アナログカメラ、IPカメラ、レコーダーなど多種多様なラインナップを揃えており、異なる規格のカメラであっても統合して運用することが可能。カメラ4台から10万台を超える大規模システムまで構築運用が可能。監視カメラの映像を分析する専用デバイスも提供。
2 VS (Video Surveillance)		初期導入費用を抑え、必要に応じて拡張が可能な小規模向け クラウド型監視カメラシステム 。モバイルやPCで高画質な映像を確認することができ、7日間から90日間の録画プランを提供。防犯としての活用方法以外にも各店舗・事業所の業務遂行状況を本社で確認する等、一括管理も可能。
2 VS (Video Surveillance)		AI顔認証技術を採用した 監視カメラ用顔認証ソリューション 。登録人物、非登録人物を識別し、外部への通知と顔情報を管理する。顔認証によるログ検知によって勤怠管理にも応用可能。
3 Analytics		AI（画像認識）専用ステレオカメラで施設の入退場者、 滞留人数を正確に計測するサービス 。ダッシュボードによる多拠点一括管理が可能。領域制限やアラート出力も可能。
3 Analytics		AI（画像認識）専用ステレオカメラによって人数を計測し、5段階のアイコン表示で 混雑具合を見える化するサービス 。一般利用者向けにWebサイトにて各種施設（温泉・商業施設等）の混雑具合を表示させたり、従業員向けに社内ポータルサイト等にてカフェ・食堂等の混雑度合をリアルタイムで表示することが可能。運営開始後は蓄積した混雑度合のデータを解析し、1週間の混雑度合予測も可能。

オフィスデザイン会社・警備会社・OA機器販売会社等、企業におけるセキュリティニーズを瞬時に感知できる業種を中心に幅広い**200社超の販売パートナー網を構築、迅速なソリューションの提案が可能。**

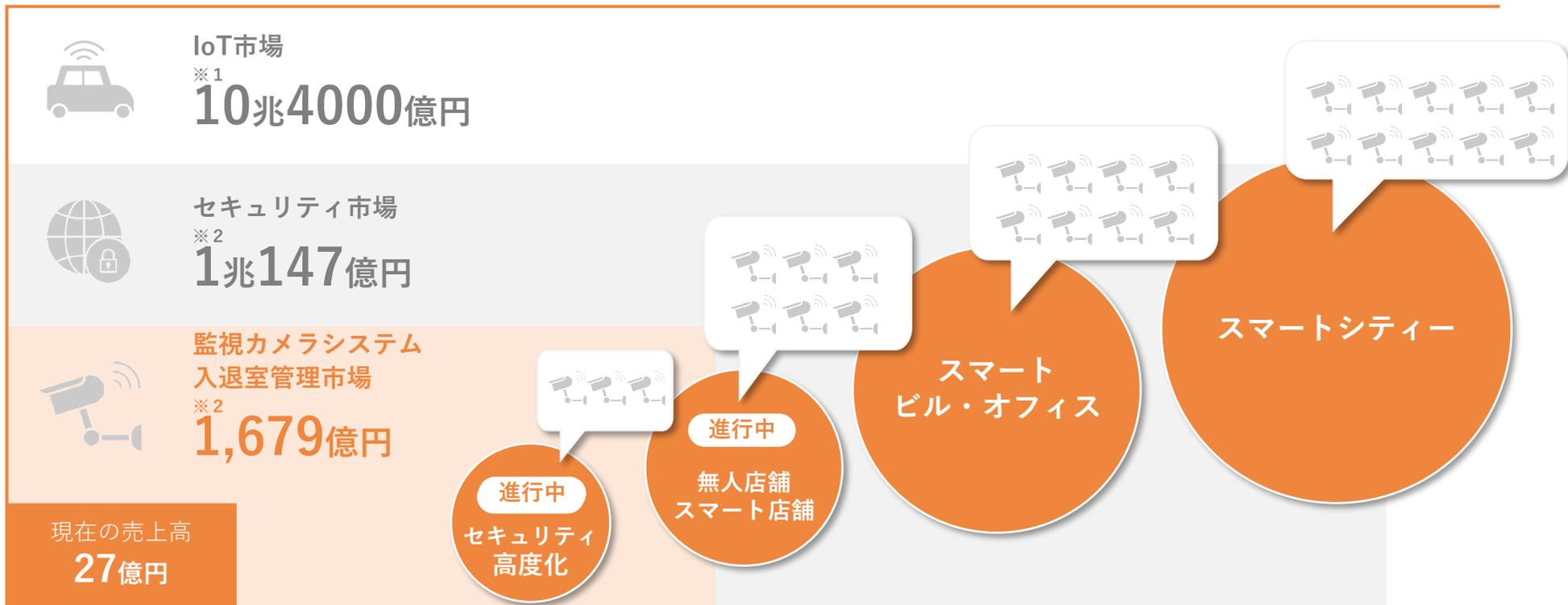


02

事業環境と当社の強み

- 01. 会社概要
- 02. 事業環境と当社の強み
- 03. 成長戦略
- 04. 財務ハイライト

監視カメラ・入退室管理の市場は将来的にセキュリティ市場やIoT市場と融合され、無人店舗やスマートシティ等においては高付加価値なカメラが必須であり、潜在台数は大きくなると予測。



少

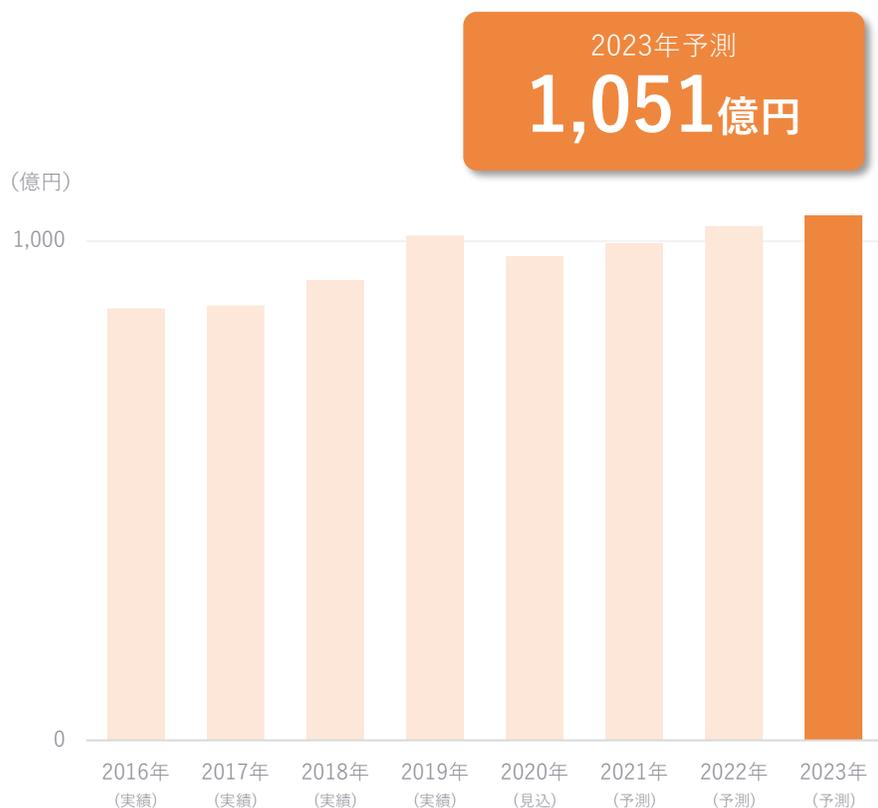
多

高付加価値カメラの潜在台数

出典：※1 IDC Japan「国内IoT市場予測」2023年予測
※2 富士経済「2020セキュリティ関連市場の将来展望」2023年予測

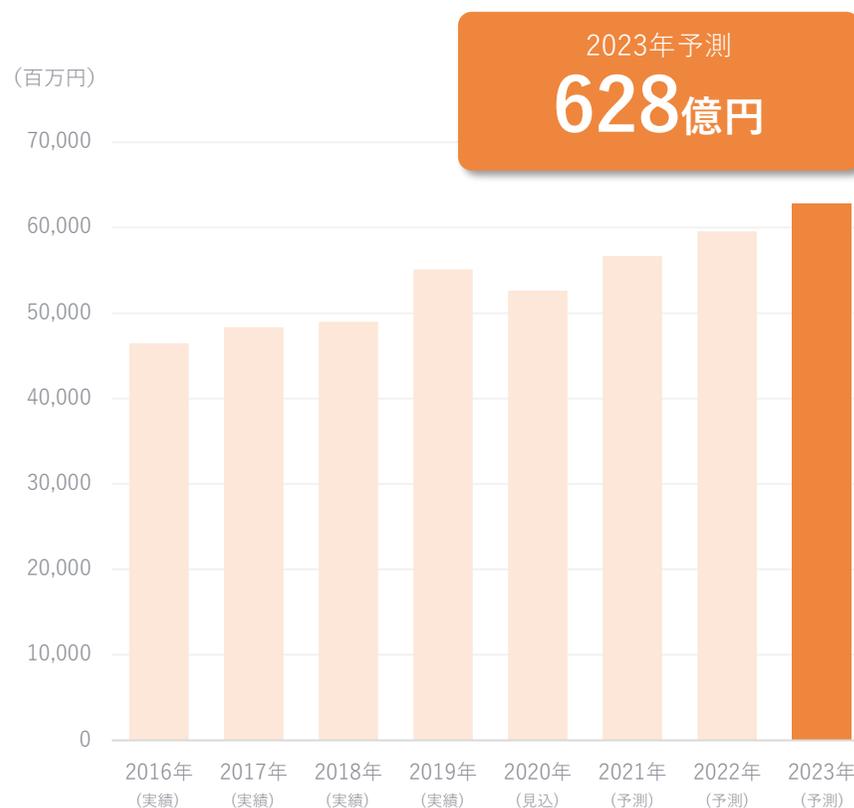
監視カメラ市場（国内）、入退室管理市場（国内）ともに堅調に成長。

監視カメラシステム市場（国内）



出典：富士経済「2020セキュリティ関連市場の将来展望」

入退室管理市場（国内）



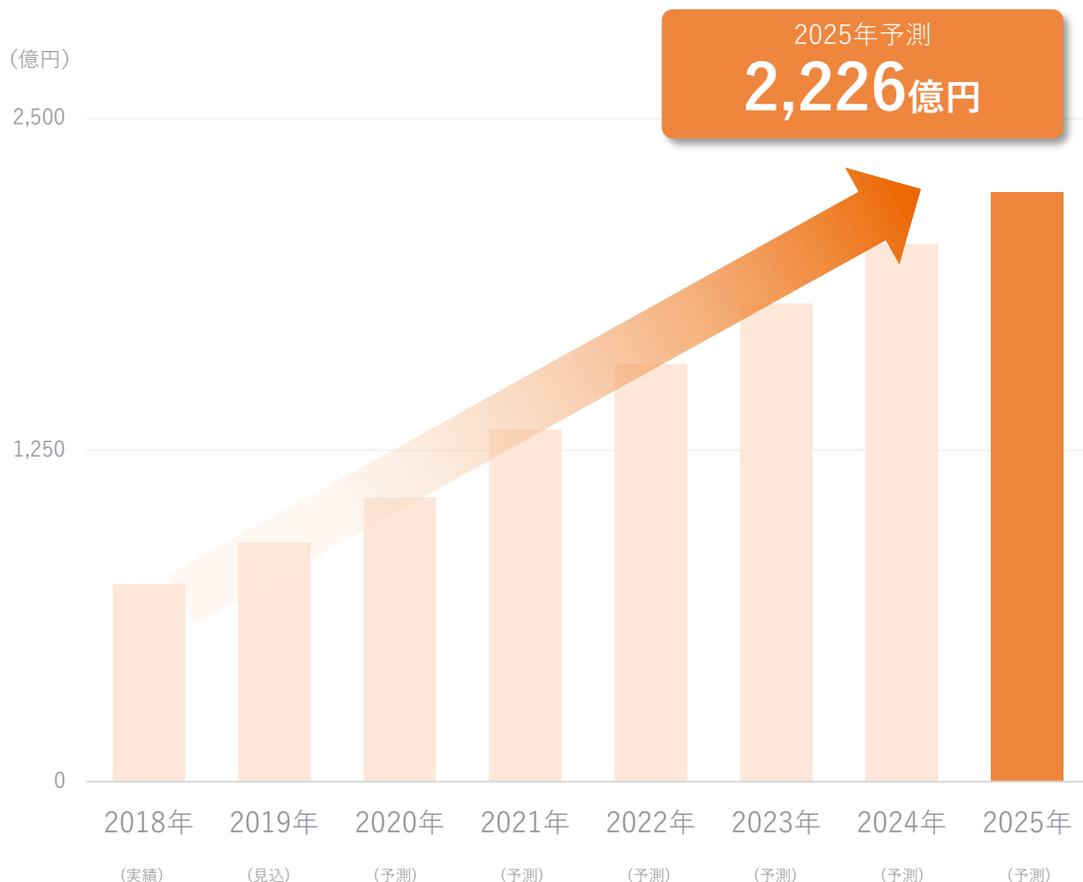
出典：富士経済「2020セキュリティ関連市場の将来展望」

企業の規模や業種等によって、**求められるセキュリティニーズは様々**であり、
当社のソリューションは、そうした**様々なニーズに柔軟に対応**。

当社の
ポジショニング

	対象	外部犯罪対策	内部不正対策	内部不正対策 認証取得	内部不正対策 法規制FISC,HACCP等 重要機密
 オフィス	主な対策	<ul style="list-style-type: none"> 遮断 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室マネジメント ログの保存 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な入退室マネジメント ログの保存 画像データの保存 	<ul style="list-style-type: none"> より高度な入退室マネジメント ログの解析 画像データの長時間保存
	推奨システム	<ul style="list-style-type: none"> 鍵・テンキー式ロック スマートロック 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 監視カメラシステム 顔認証、AI 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 監視カメラシステム セキュリティゲート
	対象	外部犯罪対策	内部不正対策	内部不正対策 認証取得	内部不正対策 法規制FISC,HACCP等 重要機密
 リテール	主な対策	<ul style="list-style-type: none"> 遮断 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室マネジメント ログの保存 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な入退室マネジメント ログの保存 画像データの保存 	<ul style="list-style-type: none"> より高度な 入退室マネジメント 画像データの解析 画像データの長時間保存
	推奨システム	<ul style="list-style-type: none"> 鍵・テンキー式ロック スマートロック 簡易カメラ 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 監視カメラシステム 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 監視カメラシステム 顔認証、AI 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 監視カメラシステム セキュリティゲート
	対象	小規模店舗のレジや店内の簡易的なモニタリング	レコーディング 高度なモニタリング	万引きや内部不正 バイトテロ対策	防災センターや本部での集中監視

AI関連市場（国内）



2025年の詳細

顔・表情認識市場は
470億円と大きな割合を占める

AI関連市場
2,226億円

顔・表情認識市場
470億円

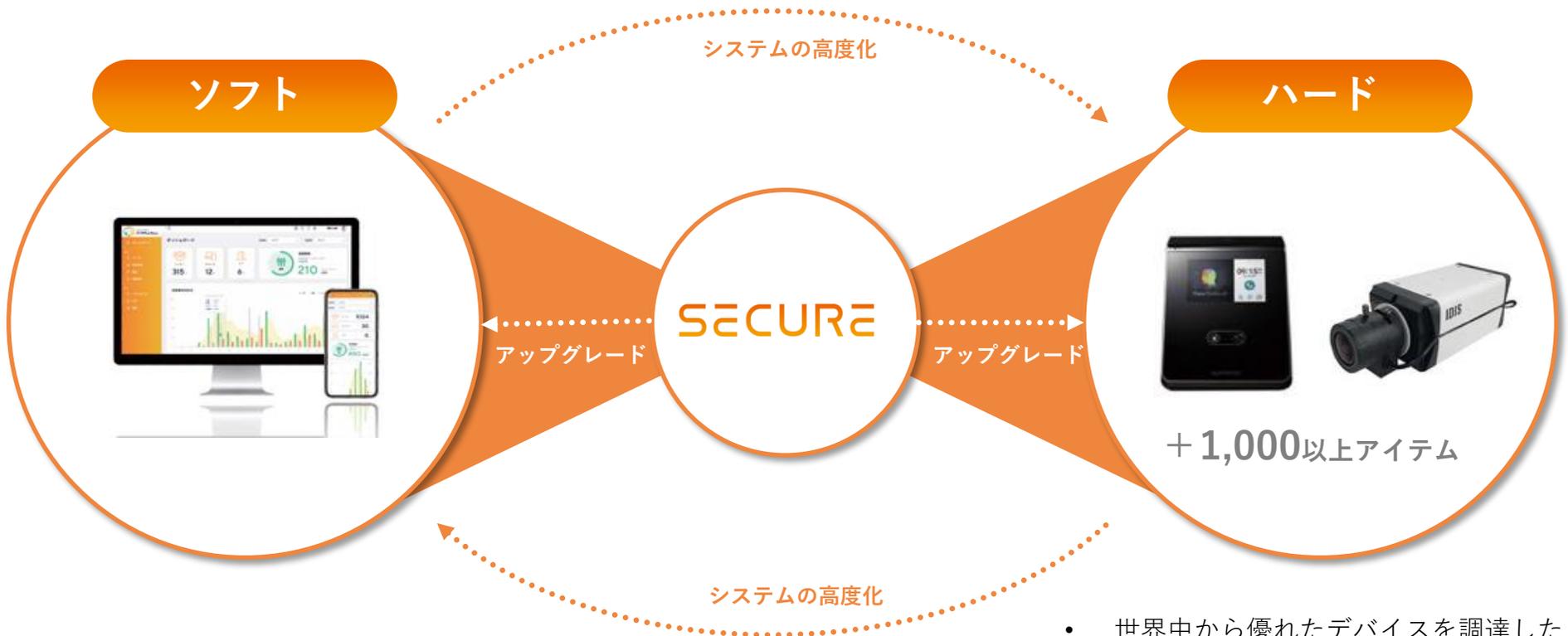
当社の強みである「顔・表情認識AI市場」は
全体の約1/5の割合を占める
大きい市場になる見込み

出典：富士カメラ総研に基づき当社で作成

AI関連市場とは画像・音声AI市場（顔・表情認識、音声認識）とその技術を用いた各ソリューション（無人店舗ソリューション等）の合計額

高度なセキュリティを提供できるサイクル。

ハード・ソフト両方の継続的なアップグレードで付加価値の高いシステムの構築が可能。



- 大量のデバイスをマネジメント可能
- 運用に優れた機能性
- 画像認識のパフォーマンスを極大化するアプリケーション

- 世界中から優れたデバイスを調達した豊富なラインナップ
- デバイス間の互換性
- 用途に合わせたパフォーマンスを発揮できる多彩な顔認証・画像認識用デバイス

安さ手軽さよりも、運用をしてより効果を高めたいというユーザーに対して、
ワンストップでコストパフォーマンスに優れた**最適なシステムを提供**。

SECURE

監視カメラ・入退室管理、
画像関連までハード/ソフトを一気通貫で提供可能なことによる価値提供

ニーズ/目的
高度な運用



- 高いセキュリティレベル
- 拡張性
- セキュリティ以外の多目的利用
- 顔認証等画像認識の利用

ユーザビリティ
ワンストップで提供



- セキュアではワンストップで提案が可能のため、ユーザーの手間が省け機能性も高い

価値提供
最適化モデル



- 画像認識やソフトからハードやアフターフォローまで、ユーザーニーズに合わせてシステムの最適化。コストを抑えてパフォーマンスを最大化

その他企業

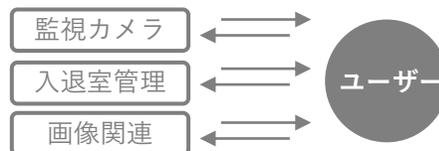
一般に監視カメラや入退室管理、画像関連等のサービスはそれぞれ特化して提供している。シンプルな機能のIoT系サービスを多い

ニーズ/目的
手軽さ



- シンプルなモニタリング/録画やロック機能

ユーザビリティ
複数の企業から購入

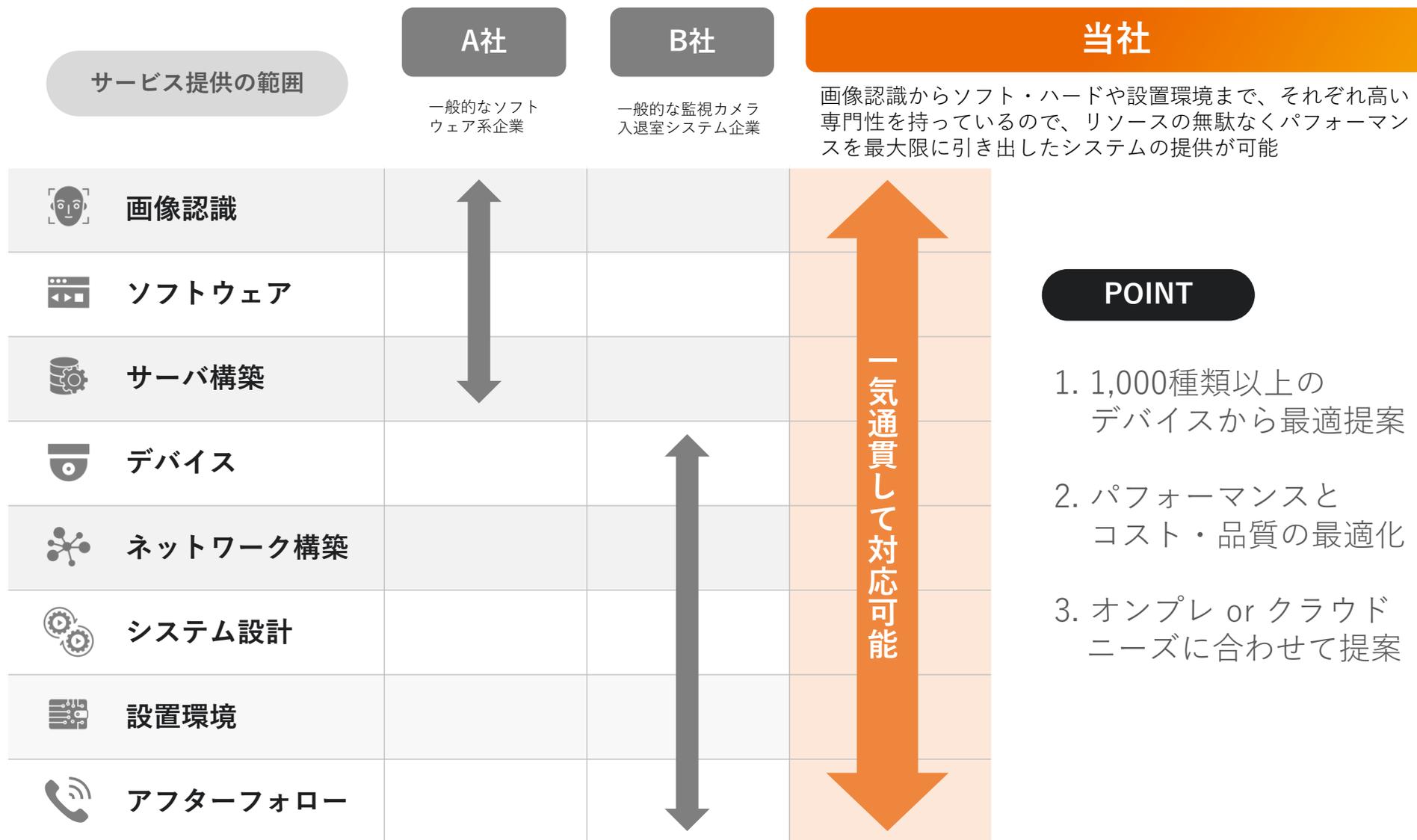


- 一般的にユーザーは監視カメラ、入退室管理、顔認証等の画像認識サービスを別々の会社から購入する

価値提供
性能 or コスト



- 画像認識やソフト、ハード等全ての領域に専門性を持たないと、オーバースペック（コスト高）や性能や安定性に欠けるシステムになりがち



Security System Labでシステムの最適化の研究と専門人材の育成を行ない、

高度なセキュリティサービスを顧客にとって最適なソリューションとして提供できるように研究開発を実施。



多様な要素を常にアップデートし
システムの高度化を追求

人材育成

システム最適化

アップデート



Security System Lab

セキュリティシステムの構築は非常に複雑。
当社ではセキュリティシステムの、より**高度な運用と多目的化を追求**。

SECURE VS



15万台の
カメラ&
システム構築

- 全国の店舗に合計**150,000台超**のカメラシステムを構築
- 膨大な量のカメラの互換性とデータ損失のリスクに対応
- 大量のカメラ画像を一元管理できる優れたマネジメントシステム

主な目的

年間数十億円規模の
ロス率削減

SECURE VS



200店舗へ
カメラ設置

- 臨店コスト削減のため200店舗超の防犯カメラ画像を活用
- 通信コスト削減のため既存の回線を活用
→データ量の大きいカメラ画像でPOSシステムの通信を圧迫しないよう
帯域を自動でコントロール

主な目的

臨店コスト/通信コスト
の削減

SECURE AC/VS/Analytics



高度な
画像技術

- 監視カメラでセキュリティ+マシンの稼働率分析
- 会員は顔認証で手ぶらで入店可能
- 混雑状況もWebで確認

主な目的

半無人化運営

高度な顔認証・画像認識技術を活用し、顧客ニーズと世の中の流れを汲んだサービスを開発。

特に顔認証関連商品は、ライセンス・デバイス合わせて5,000件以上の導入実績。（うちライセンスは約34%程度）

非接触ニーズで需要の高まっている**顔認証国内シェアは50%以上**

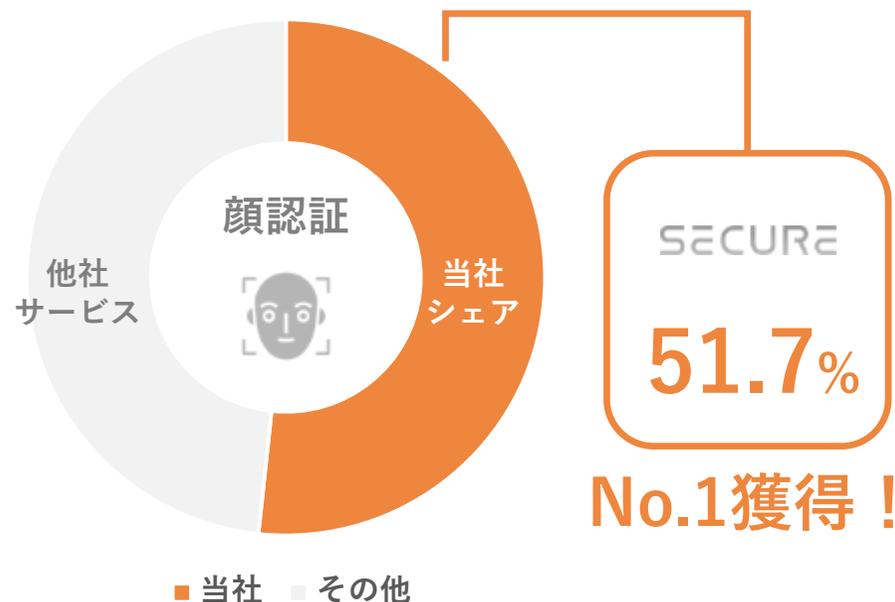
顔認証関連のサービスの概況



※ライセンス：「顔認証のぞき見ブロック」 「Face Tracker」の顔認証ソフトウェアライセンス
 ※デバイス：入退室管理システム導入時に設置される顔認証デバイス

顔認証国内シェア率（入退室管理用途）

オフィスやフィットネス
食品工場等で幅広く導入
コロナ禍の非接触ニーズで今後も需要高まる



出典：富士経済「2021セキュリティ関連市場の将来展望」の2020年実績（数量ベース）

自社開発で運営中：AI STORE LAB（無人店舗）

監視カメラシステムの応用で独自開発した無人店舗を新宿住友ビルにて実証中。誰がどんな商品を手にとったかをAIが認識し、お会計は顔認証で手ぶら決済を実現。

コラボ第1弾 アットコスメ(20.7~21.3)

コラボ第2弾 小学館DIME(21.4~)

顔認証による入店・決済

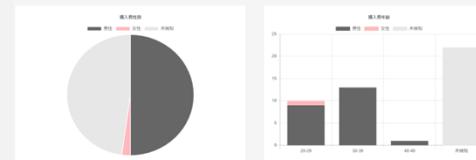
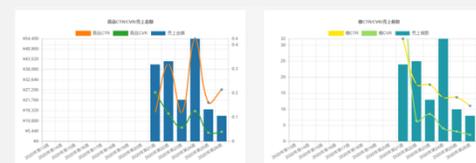
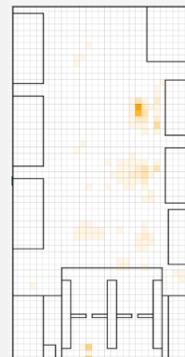


AI商品棚



手に取った商品を自動で認識し、AI商品棚にあるサインページ上の買い物かごに表示される。またネット上の口コミ情報も自動的に表示される。

インストアアナリティクス



購入前の来店者の行動を定量化。「手に取って購入しなかった商品」の情報も分析可能。

200社超の販売パートナー企業

SECURE

オフィスデザイン会社・警備会社・OA機器販売会社等、企業におけるセキュリティニーズを瞬時に感知できる業種を中心に幅広い**200社超の販売パートナー企業**（一部抜粋）。



RICOH



KOKUYO



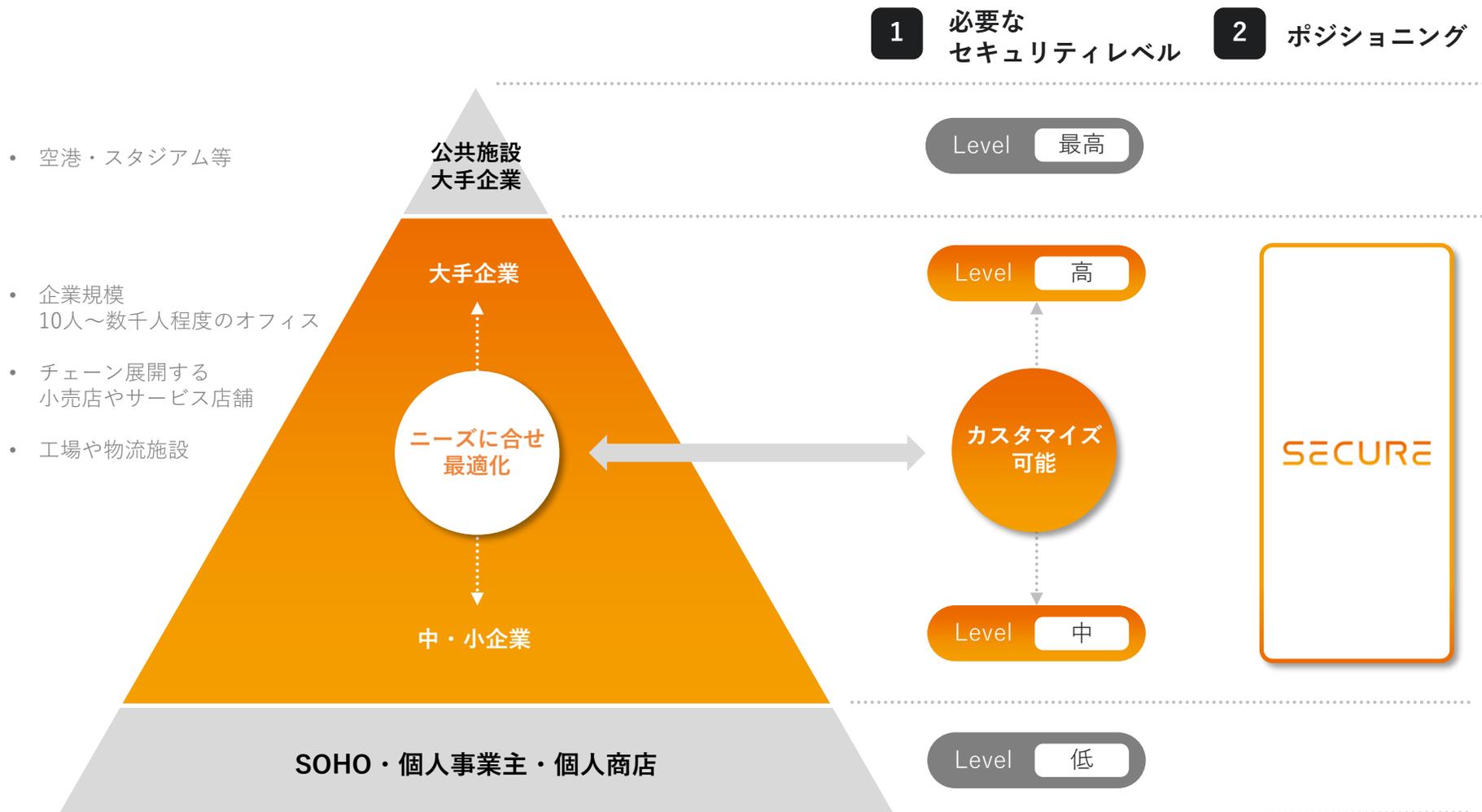
JVCKENWOOD



+200社以上

当社の強みが活かせる領域は非常に大きい

当社がメイン領域とする「中・小企業～大手企業」の領域で事業を展開するには、様々なデバイスでシステムを構築＋一定のセキュリティレベルが必須であり、**単一IoT事業者では開拓できない領域。**



短期的にはマイナス面はあるものの、
非接触やDXの加速などコロナ対応のソリューションで長期的にはプラス。



+

プラス面

① 新しい働き方

- ・シェアオフィス、サテライトオフィス市場の拡大
- ・リモートワーク時のセキュリティニーズ増大

② 非接触・健康管理

- ・顔認証の需要増
- ・オフィスや商業施設での健康管理などの新たな需要
- ・ソーシャルディスタンスや混雑度状況把握

③ DXの加速

- ・無人化・省力化ニーズの増加
- ・スマート化施設の推進加速



-

マイナス面

① オフィスマーケットの停滞

- ・リモートワークの推進
- ・オフィス移転件数の減少

② 遅延や延期・中止

- ・顧客在宅化による納期遅延
- ・顧客の事業見直しによる遅延・延期・中止

③ サプライチェーンの寸断

- ・サプライチェーンの問題による納期遅延や欠品のリスク

03

成長戦略

- 01. 会社概要
- 02. 事業環境と当社の強み
- 03. 成長戦略
- 04. 財務ハイライト

3つの成長戦略

1 既存ビジネス

パートナーの深堀・発掘

+

AI強化・SaaS強化

↓
継続成長
収益力UP

2 Retail DX

AI STORE LAB
収益化

↓
新たな収益

SECURE

3 海外展開

韓国・ASEAN
への展開

↓
市場の拡大

パートナーセールス人員の増強や
広告宣伝等の強化を行う。また
パートナー企業との新サービスの
共同開発も推進する。

パートナーの
深掘/発掘

既存ビジネス
成長サイクル

AI強化
SaaS強化

顔認証や人物検出機能を強化した商品
や、SaaS系サービスのマーケティング
を強化することで、付加価値の高い
商品の販売比率を高める。

導入件数UP ↑

大型ビル

ホテル

病院

既存領域

- ・ オフィス
- ・ 商業施設
- ・ 工場

データセンター

マンション

学校

領域拡大 ↑

パートナー企業と共に新しい領域展開を図る。

「既存パートナーの育成、新規パートナーの獲得」のための施策を実施することで、
既存ビジネスの継続的な拡大を見込む。

既存



パートナーの深掘



【施策】

セールス人材の採用・育成

パートナー企業へトレーニングの継続実施

トレーニング用コンテンツの拡充

パッケージ開発・新サービス開発

新規



パートナーの発掘



【施策】

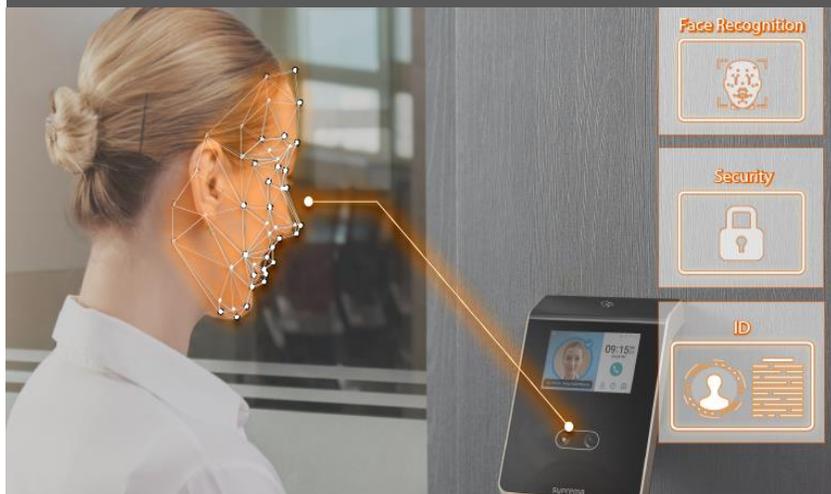
Web広告等の強化

ウェビナー・セミナーの開催

展示会・プライベートショーの開催（コロナ後）

コロナ禍による**非接触ニーズ**などから**顔認証**や**人の検出**等の機能を強化。

顔認証の機能強化



屋外対応



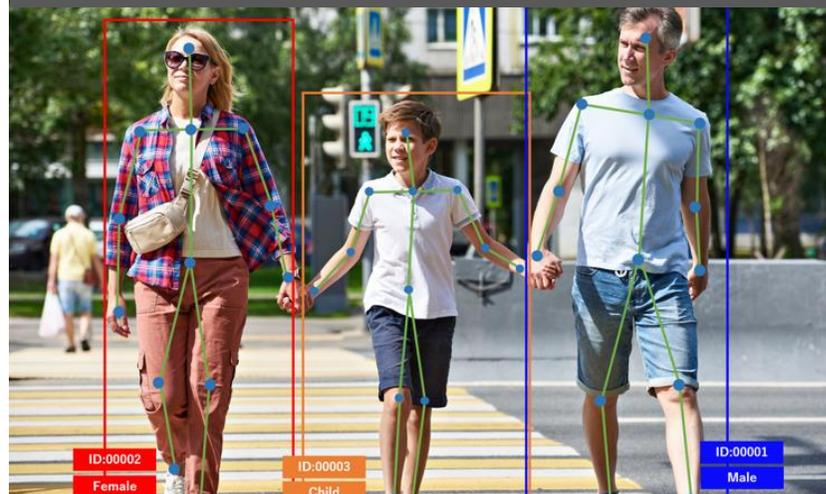
クラウド機能強化



マスク対応

* 2022年より順次リリース

人検出AIの拡充



監視カメラシステム
SECURE VS



類似人物検出



監視カメラシステム
SECURE VS



ソーシャルディスタンス



混雑COUNT
混雑見える化ソリューション



精度向上

* 2022年より順次リリース

SaaS系サービス一覧



新しいワークスタイルを支援する
顔認証クラウド型入退室管理システム

SECURE VSaaS

簡単導入クラウド型
モニタリング・レコー
ディングサービス

店舗などの混雑状況を可
視化するSaaS型の混雑
可視化ツール

覗き見の防止だけでなく
社内システムログイン中
の継続した本人確認

拡大戦略

短期

SECURE ACの
SaaS強化を推し進める

- Webマーケティングの強化
- 直販体制の強化
- イニシャルコストを抑えたサービスプランの導入
- 機能強化→シェアオフィスや勤怠機能、会員管理機能等の強化・連携

中長期

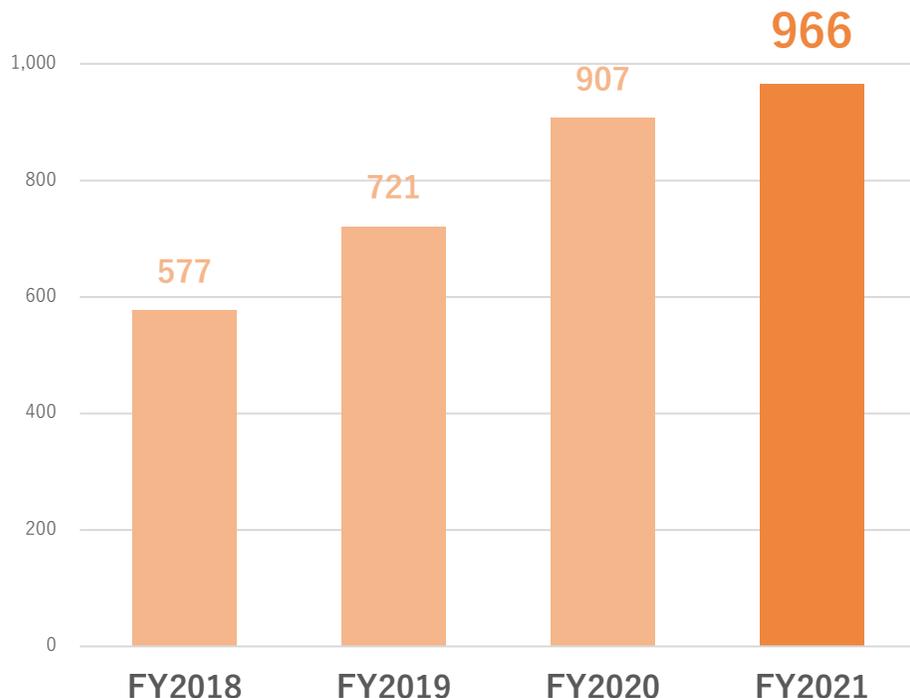
SECURE VSのSaaS強化

- 通信コスト、クラウドのコストの観点から当面はオンプレを主体で提案
- 顔認証等を活用した新サービスの開発

- SECURE ACは、入退室用途での顔認証システムの需要が増加。導入件数は+6.5%で堅調に推移。
- SECURE VSは、コロナ禍で需要が伸びた小売業界等で導入増加。件数は+12.8%で順調に推移。

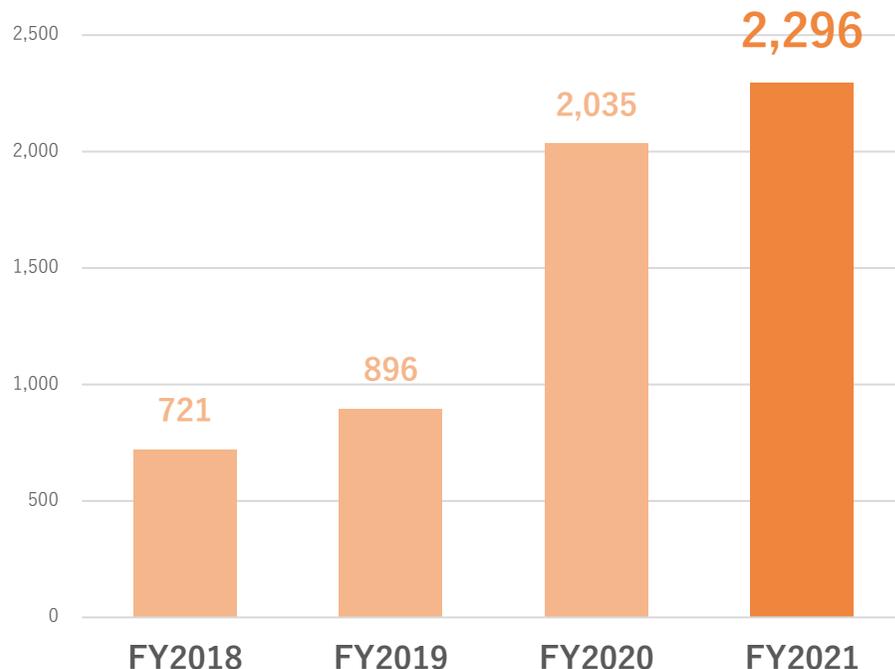
SECURE AC 導入件数の推移

(件)



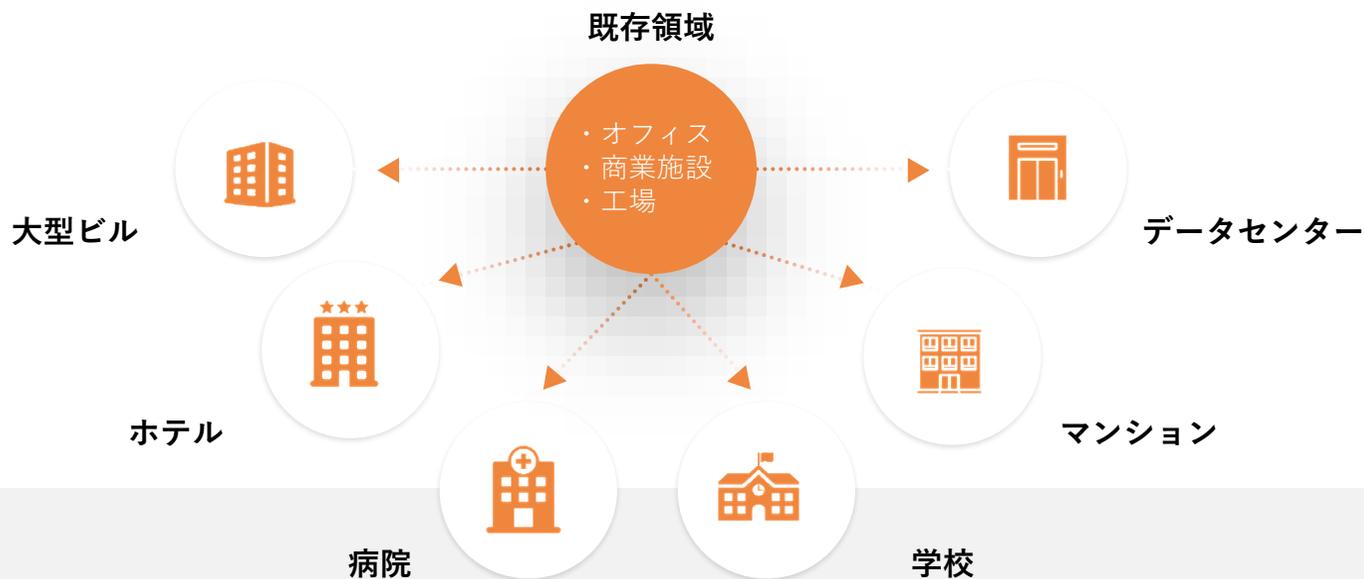
SECURE VS 導入件数の推移

(件)



※導入件数とは、SECURE ACは20万円以上、SECURE VSは10万円以上のシステム案件としており、不具合対応やOEM等のプロジェクトは対象外としております。

「オフィス・商業施設・工場」などで培った技術基盤を基軸に、
 「データセンター・ホテル・マンション」などの領域へ横展開を実施し事業拡大を図る。



領域拡大のステップ

* 2022年以降順次実施予定

- 1 業界に強みを持つ既存パートナーや新規パートナーと連携 戦略・企画
- 2 顔認証等の画像認識技術を軸に業界特化のソリューション アプリ・パッケージ開発
- 3 PoC等を通してモデルケースの創出 拡販
*PoC(Proof of Concept) とは、新しいプロジェクトが本当に実現可能かどうかを検証する工程

2 Retail DX

AI STORE LABの収益化

AI STORE LAB を実験場として新しい形のお店の在り方を開発。
手ぶら決済や店舗内のリアルな行動のデータ化など、付加価値の
高いサービスをサブスクリプション形式でビジネスを展開予定。

事業化までのStep

Step 1

2022年夏頃まで実証実験終了
技術やビジネス上の課題を改善

Step 2

機能毎にパッケージ化してリリース

Step 3

AI Store OS ver1.0のリリース
(無人化や新しい店舗のスタイルを実現)

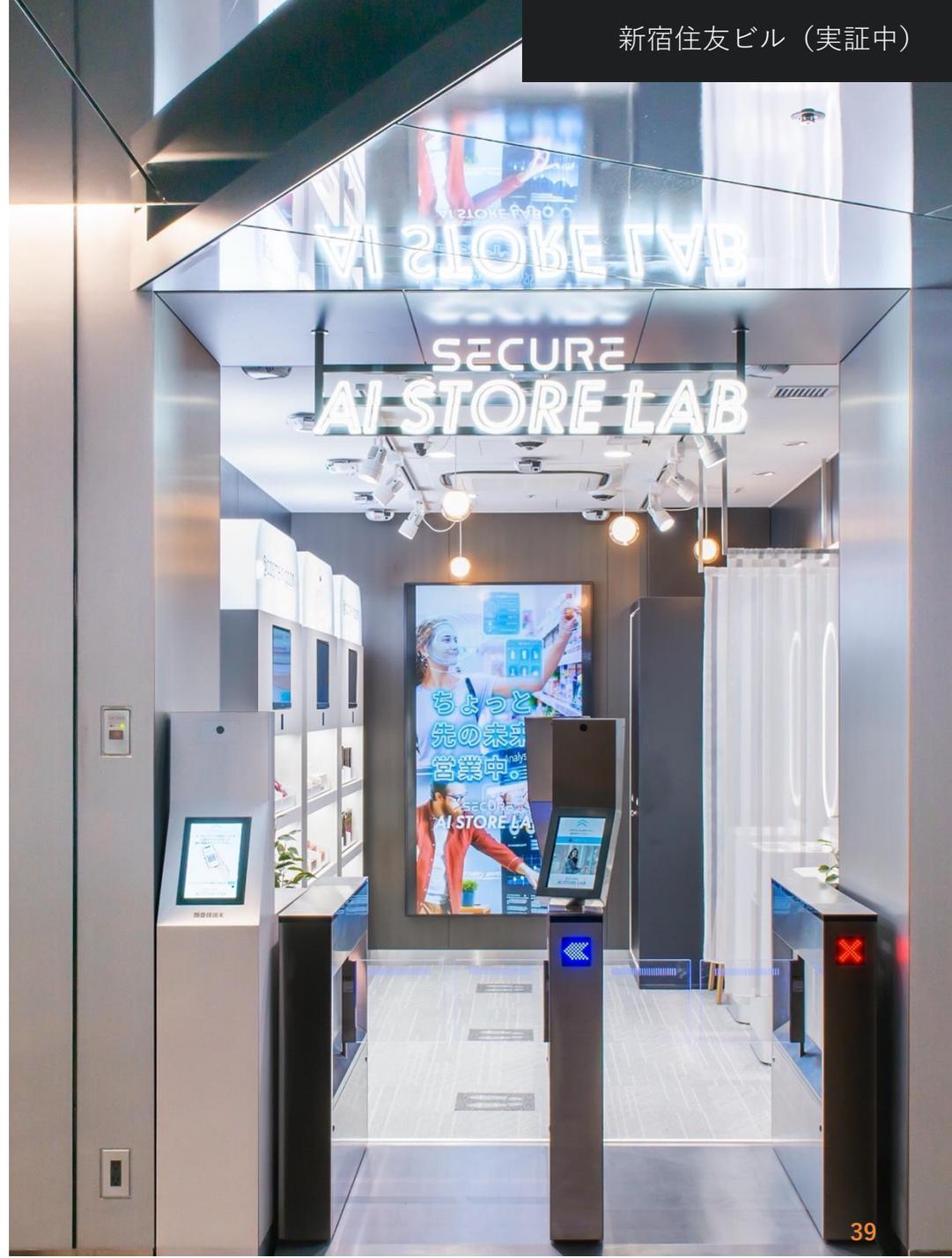
AI STOREの提供価値

手ぶら決済

AI商品棚
在庫最適化無人化
セキュリティリアル行動
データ化新しい
購買体験

OMO

* Online Merges with Offline
オンラインとオフラインを融合する





AI商品棚

新たな購買体験

来店客の行動や手にとった商品
を分析して商品情報や
口コミ等が表示

顔認証決済

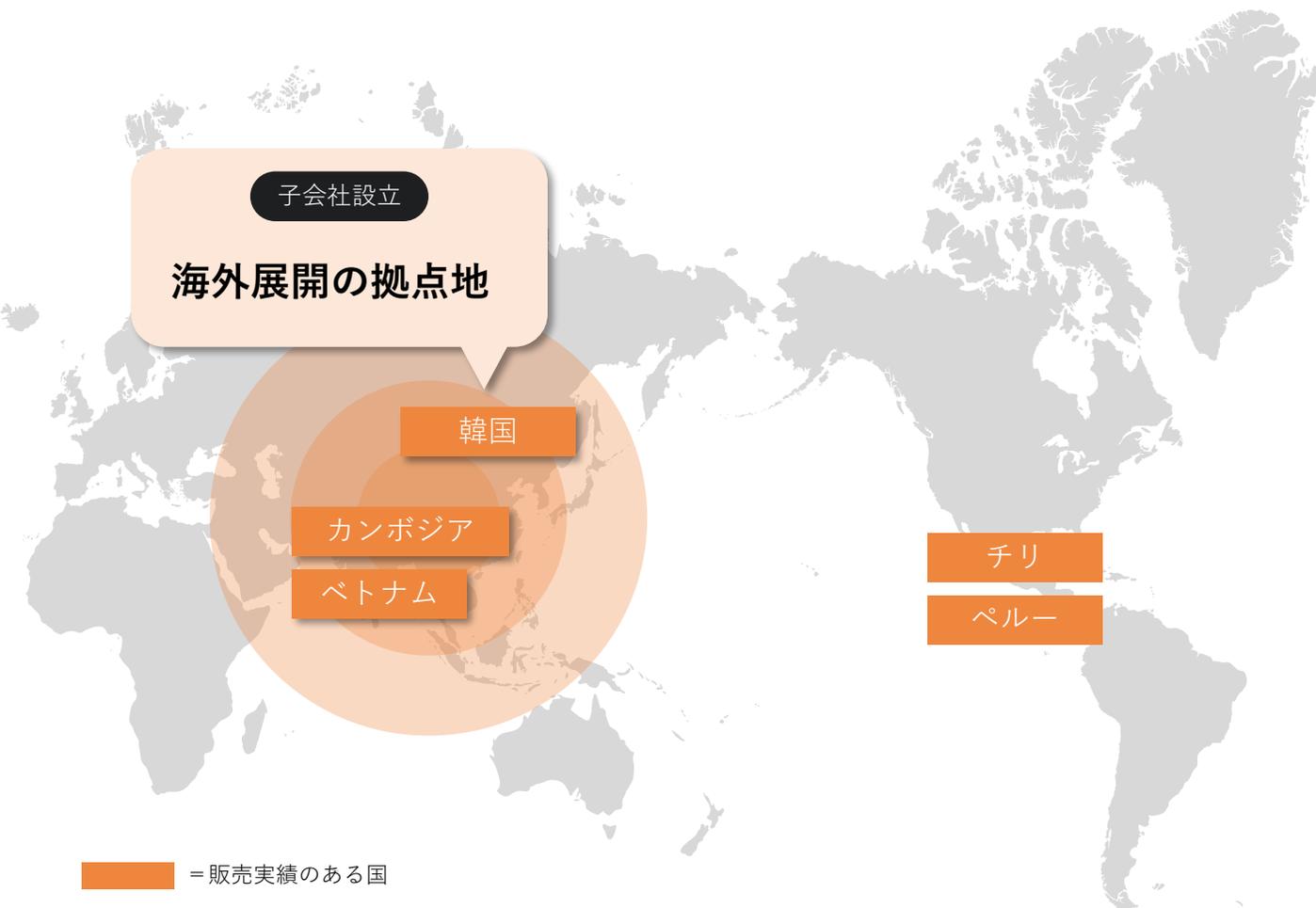


購買分析



分析中

韓国・ASEAN諸国・南米などで既に販売実績あり。韓国・東南アジアを中心に、自社クラウドシステムを軸に進出していく。



販売実績あり

韓国、カンボジア、
ベトナム、チリ、ペルー

戦略地域

韓国、ASEAN

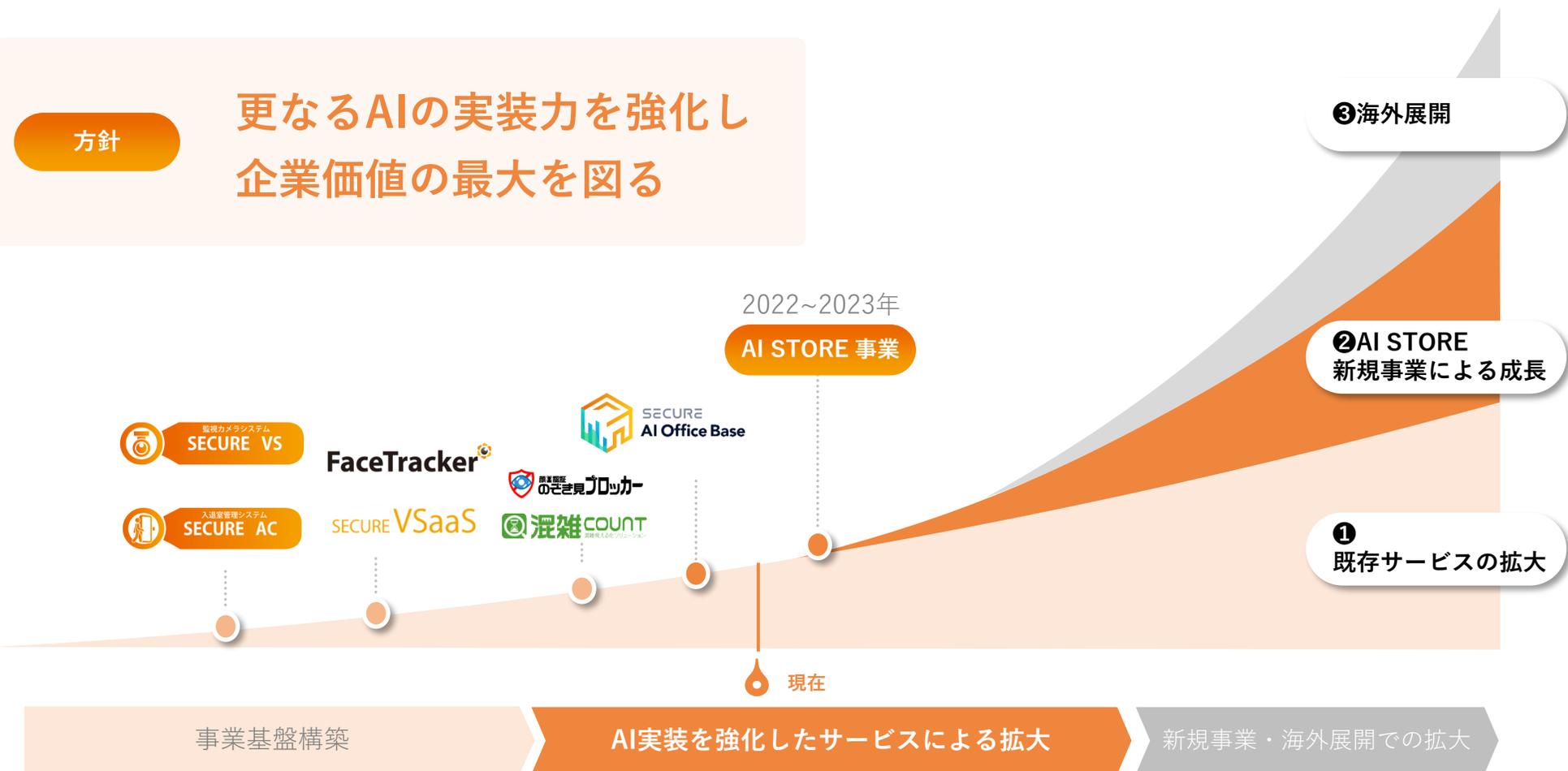
進出戦略

- 海外展示会への出展
- パートナー企業と連携
- 自社サービスの展開

既存のセキュリティソリューション事業で基盤を固め、**SaaS型ソリューションやAI技術を活用した新規ビジネスで成長を加速**させ、安心安全でスマートな社会の実現を目指す。

方針

更なるAIの実装力を強化し
企業価値の最大を図る



04

財務ハイライト

- 01. 会社概要
- 02. 事業環境と当社の強み
- 03. 市場環境
- 04. 財務ハイライト

- 売上高、各利益ともに前期から大幅に伸長。とくに**営業利益は4.4倍に増加**。
- 販管費のコントロールができているため営業利益率は上昇。業績予想比ではほぼ計画通りに着地。

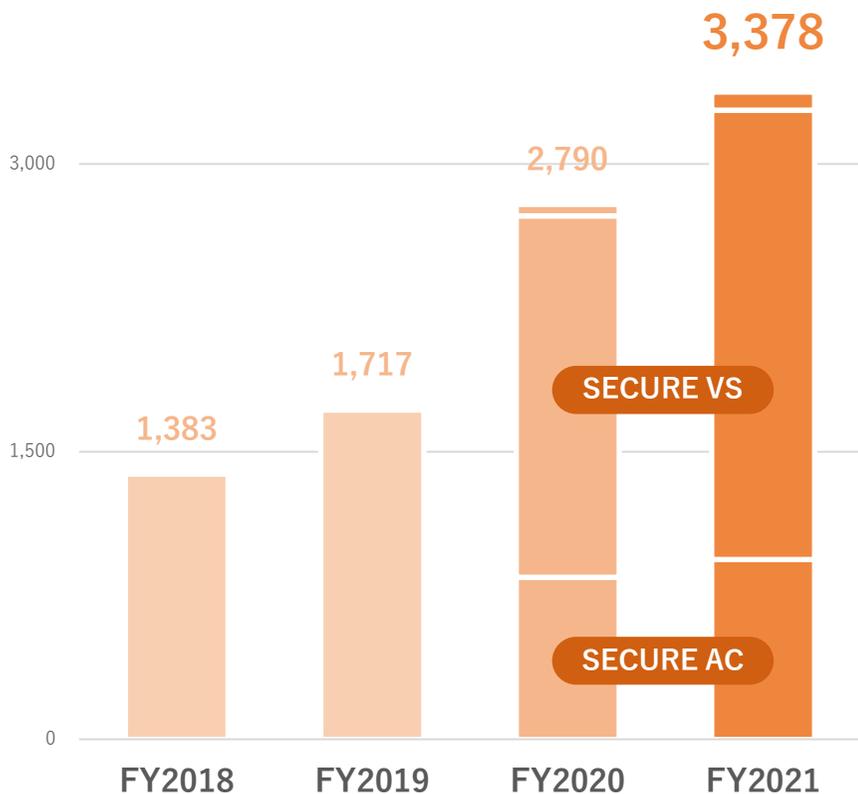
(百万円)	FY2020 実績	FY2021 業績予想*	FY2021 実績	前期比 (FY20-21比較)		業績予想* 達成率
				増減額	増減率	
売上高	2,790	3,380	3,378	588	21.1%	100.0%
SECURE AC (入退室管理システム)	845	959	938	93	11.1%	97.9%
SECURE VS (監視カメラシステム)	1,885	2,324	2,343	458	24.3%	100.9%
SECURE analytics (画像解析サービス) / その他	59	96	95	36	61.9%	99.7%
売上総利益	1,101	1,351	1,320	219	19.9%	97.7%
販売管理費	1,065	1,201	1,165	99	9.3%	97.0%
営業利益	35	150	155	119	4.4倍	103.6%
営業利益率 (%)	1.3%	4.4%	4.6%	+3.3pt	-	+0.2pt
経常利益	27	142	148	120	5.4倍	104.3%
税引前利益	25	-	148	122	5.9倍	-
当期純利益	33	126	131	98	4.0倍	104.1%
ROE (%)	7.5%	-	18.3%	+10.8pt	-	-

*業績予想は2021年12月27日発表

- 売上高は、前期比5.8億円増で**過去最高を更新**。SECURE VSが+4.5億円大きく牽引。
- 売上総利益は、売上構成の変化により利益率が若干低下したが**前期比2.1億円の増益**。

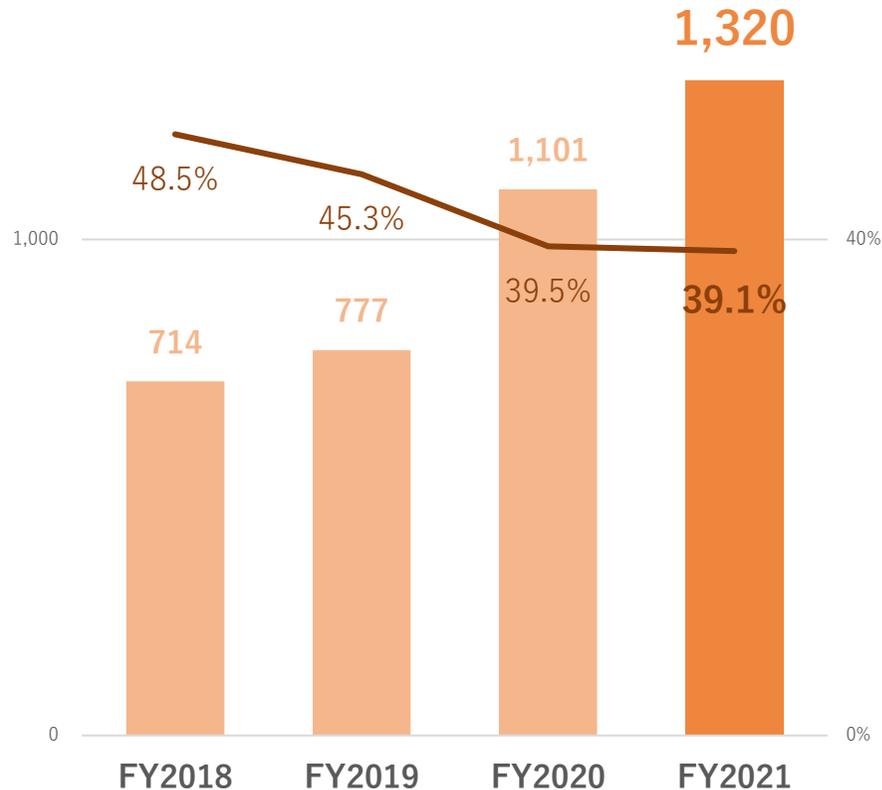
売上高

(百万円)



売上総利益・総利益率

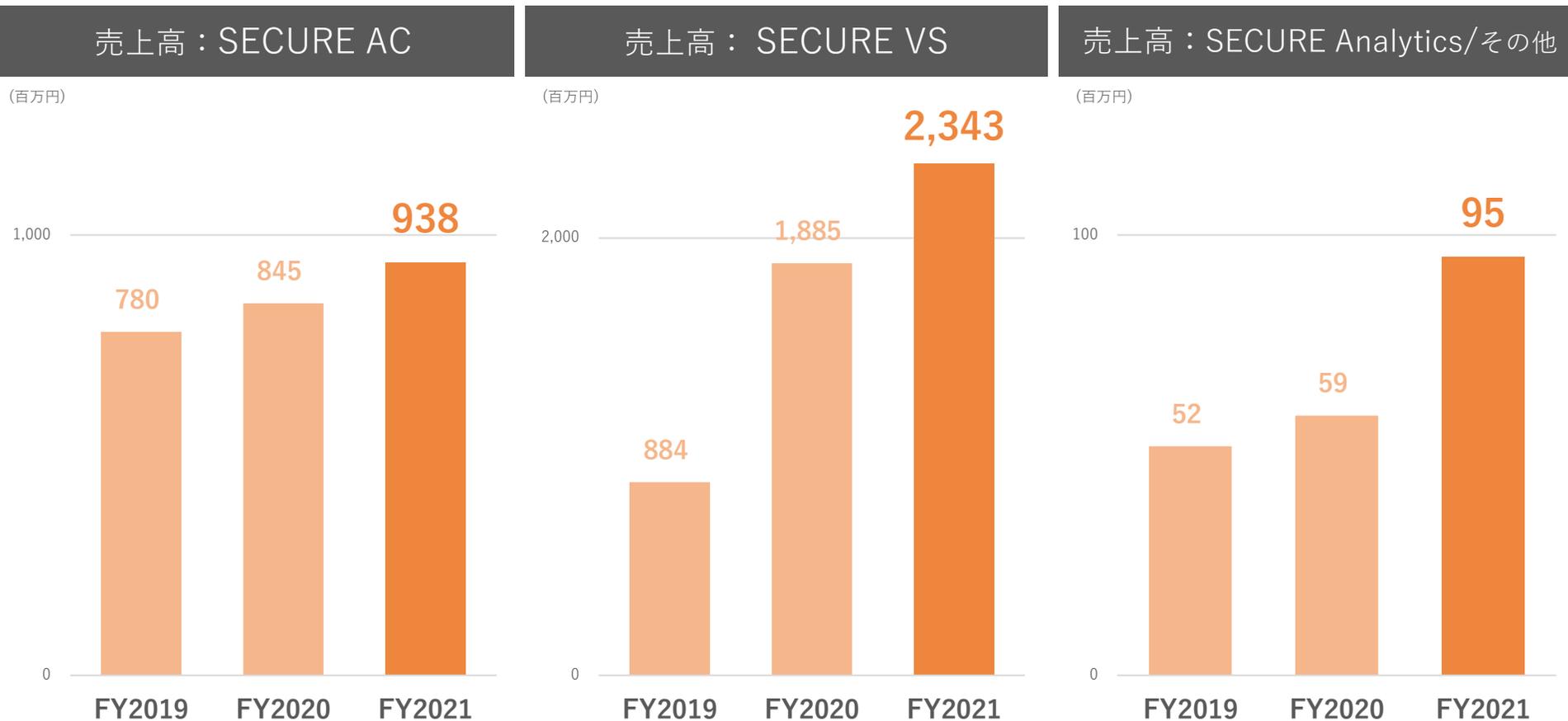
(百万円)



※FY2019までは単体、FY2020より連結の数値。連結子会社は完全子会社でありシステム開発や研究に特化しているため売上高は単体と連結で一致。

商品別売上高の推移

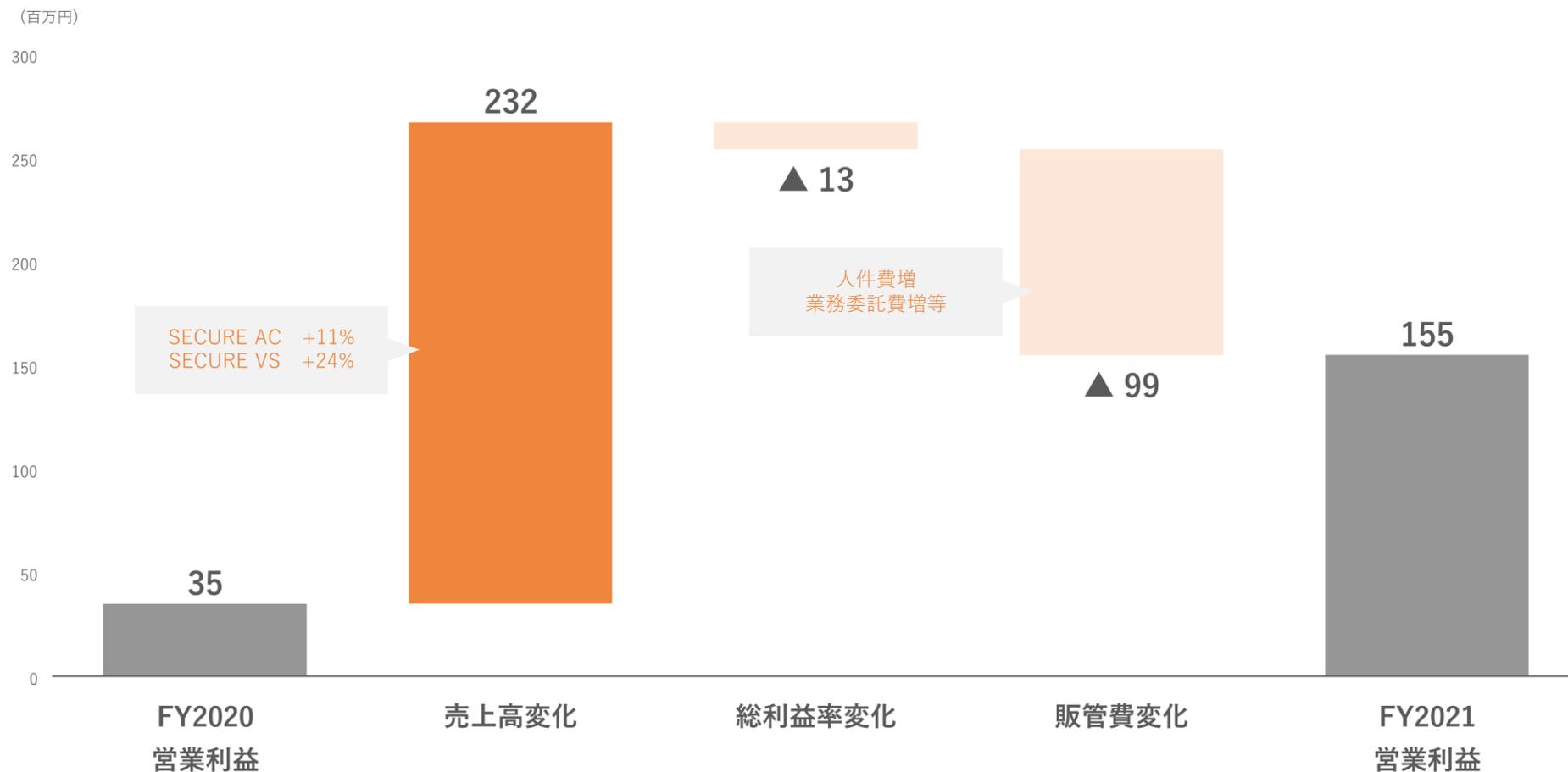
- SECURE ACは、コロナ禍の厳しいオフィス市場環境の中でも顔認証需要増で単価アップを図り11%UP。
- SECURE VSは、小売関係やフィットネス等の需要が堅調に推移し24%の増収。
- SECURE Analyticsは、コーヒーチェーンでの群衆・混雑カウントに採用等、混雑度表示サービスが好調。



※FY2019までは単体、FY2020より連結の数値。連結子会社は完全子会社でありシステム開発や研究に特化しているため売上高は単体と連結で一致。

営業利益増減要因（前期比）

- 営業利益は、**増収効果が大きく前期比1.2億円の増益。**
- 販管費の増加は、成長投資である人材関連費等の増加による。



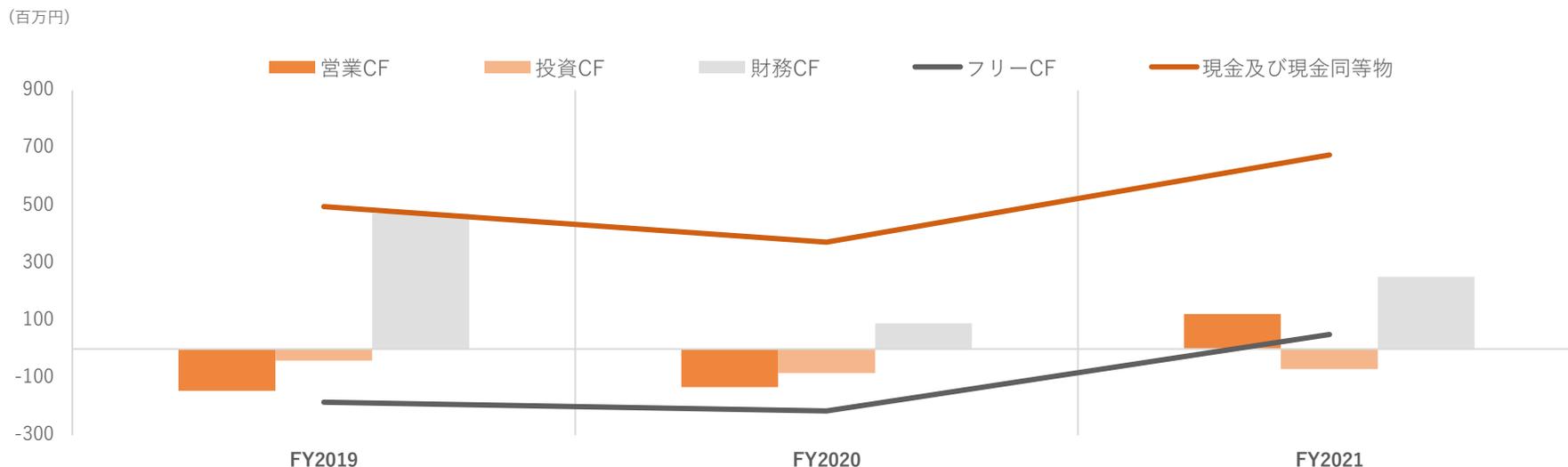
- 株式上場による資金調達と利益の積み上げでキャッシュ増加。
- 有利子負債の削減も進めて自己資本比率は上昇。

(百万円)	FY2020 実績	FY2021 実績	前期比 増減額	前期比 増減率
流動資産	1,191	1,683	492	41.3%
現金及び預金	372	675	303	81.6%
受取手形及び売掛金	379	497	118	31.1%
商品	400	455	54	13.7%
固定資産	276	297	20	7.6%
総資産	1,468	1,981	513	35.0%
負債	1,013	998	△14	△1.4%
買掛金	173	237	64	37.3%
有利子負債*	607	476	△131	△21.6%
純資産	455	983	527	116.0%
自己資本比率	31.0%	49.6%	+18.6pt	-

*有利子負債 = 短期借入金 + 1年内返済予定の長期借入金 + 長期借入金

キャッシュフロー (CF)

- 当期は利益増加により営業CFがプラスに転換。(前期はたな卸資産の増加等により営業CFマイナス)
- 営業CF増加と研究開発投資が一巡したことで、フリーCFもプラスに転換。



(百万円)	FY2019*	FY2020	FY2021	前期比
営業キャッシュフロー	△145	△132	122	254
投資キャッシュフロー	△40	△83	△70	12
フリーキャッシュフロー	△185	△215	51	266
財務キャッシュフロー	471	90	252	161
現金及び現金同等物	496	372	675	303

※FY2019までは単体でFY2020より連結の数値

FY2022業績予想は、10.4%の増収と2.9%の営業増益を計画。
 FY2021と同水準の営業利益額を確保し将来成長のための先行投資(人材や開発投資等)を積極的に実施。
 本社オフィス拡張に伴う特別損失発生により、当期純利益は減益となる見込み。

(百万円)	FY2021 実績	FY2022 業績予想	前期比 (FY2021比較)	
			増減額	増減率
売上高	3,378	3,730	351	10.4%
SECURE AC (入退室管理システム)	938	1,100	161	17.2%
SECURE VS (監視カメラシステム)	2,343	2,520	176	7.5%
SECURE analytics (画像解析サービス/その他)	95	110	14	14.9%
営業利益	155	160	4	2.9%
営業利益率 (%)	4.6%	4.3%	△0.3pt	-
経常利益	148	152	3	2.7%
税引前利益	148	152	3	2.7%
当期純利益	131	118	△13	△10.3%

(ご参考) 財務ハイライト

SECURE

		FY2016*	FY2017*	FY2018*	FY2019*	FY2020	FY2021
		15期	16期	17期	18期	19期	20期
売上高	(千円)	998,292	1,383,684	1,473,179	1,717,077	2,790,181	3,378,576
経常利益	(千円)	△123,965	39,304	66,109	△56,570	27,637	148,041
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	△140,387	31,525	46,750	△47,191	33,032	131,476
資本金	(千円)	227,000	227,000	227,000	294,000	294,000	490,213
発行済株式総数	(株)	120,554	120,554	120,554	138,054	138,054	4,590,620
純資産額	(千円)	41,032	71,950	119,313	421,740	455,236	983,086
総資産額	(千円)	602,748	577,176	786,339	1,261,002	1,468,294	1,981,467
1株当たり純資産額	(円)	340.37	596.83	989.71	19.84	29.10	214.15
1株当たり当期純利益	(円)	△1,164.52	261.51	387.80	△13.04	7.98	31.67
自己資本比率	(%)	6.8	12.5	15.2	33.4	31.0	49.6
自己資本利益率	(%)	-	55.8	48.9	-	7.5	18.3
営業キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	△145,328	△132,113	122,231
投資キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	△40,341	△83,268	△70,779
財務キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	471,241	90,585	252,140
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	-	-	-	496,345	372,110	675,933
従業員数(他、平均臨時雇用人数)	(人)	51	48	57	68	91	98

※FY2019までは単体でFY2020より連結の数値、FY2018までは監査を受けていないため参考数値

リスク	リスクの概要	発生可能性	影響度	対応方針
競争激化	新規参入業者の増加による売上減少や価格競争激化による収益の低下	低	大	サービス品質向上や継続した性能面や機能面の向上による参入障壁の強化 既存事業をコアに、事業内容の多角化・新事業への取り組みを実施
人材確保	人材獲得競争の激化により有能な人材が確保ができず当社グループが求める品質水準の低下	中	中	人材育成の高度化や労働環境の改善等による退職率の低減等の人事政策に取組み採用力を強化する
技術開発の遅れ	技術革新への対応が遅れ、提供サービスの陳腐化による競争力の低下	中	中	常に世界中から最新の情報・テクノロジーを収集し、市場動向の変化を分析することで、新規サービスを開発する
情報漏えい・流出	個人情報や重要情報が外部に漏えい・流出することにより損害賠償請求や社会的信用の失墜	中	大	情報管理・個人情報管理に関する諸規程等の制定や、社内の研修体制の整備など、コンプライアンス体制の整備を図る
法的規制	個人情報・プライバシーの観点からのAI活用の規制	低	中	EU等諸外国の状況を調査分析しながら、プライバシーに配慮した商品サービス開発に取り組んでいく

※投資者の判断にとって特に重要であると当社が考える事項について、積極的な情報開示の観点から記載しております。本項の記載内容は当社株式の投資に関する全てのリスクを網羅しているものではありません。当社は、これらのリスクの発生可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の迅速な対応に努める方針ではありますが、当社株式に関する投資判断は、本項及び本項以外の記載内容並びに有価証券届出書「事業等のリスク」をあわせて参照し、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであります。

- 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。将来予想に関する記述には様々なリスクや不確実性が含まれており、その結果、実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。
- これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。
- 今後、「事業計画及び成長可能性に関する事項」については、決算発表の時期を目途に開示を行う予定です。